ブックトーク『古典の世界』　中１年　国語　　12 月　11 日（3 校時　1-4）　　佐世保市立大野中学校　司書　梶川由香理			
	原稿	提示資料	生徒の反応
	みなさんこんにちは。今日は古典作品をたくさん紹介します。ぎゅっと詰め込むので、よく聞いてないとわからなくなりますよ？先に紹介する本のリストを配ります。あらすじをメモしたり、気になったものにしるしをつけたりしてください。	ブックリスト	
	では、初めにこの世界や人間は、どうやって誕生したと思いますか？ 　科学の世界では、４６億年前に地球が誕生し、いろいろあって人間は猿から進化した、と考えられています。ここら辺の話も、聞いてみると本当に面白い部分ですが、今日は国語なのでこれはまたの機会に。 　そういう科学的な話の一方で、世界中に「この世界は神様が作った」という神話が残っていますよね？日本でも同じような話があります。そんな話を集めてまとめたのが、古事記物語。	カード	
	これは一冊でたくさんの話が読めて、とっても面白いです。登場するのは神様が多いですがとても人間っぽいです。 　初めは、日本の国を作ったイザナギとイザナミが載っています。黄泉の国として、絵本にもなっています。死んでしまったイザナミをさがして、黄泉の国へ行ったイザナギ。恐ろしい姿になっていたイザナミはイザナギも殺そうと追いかけます。なんとか逃げ切ったイザナギは、禊（穢れを洗い流すこと）をして、天照大御神、月黄泉の命、スサノオの命、が生まれました。 　その後、話は３人の子どもから孫へとつながっていきます。天の岩戸にかくれた天照大神、ヤマタノオロチを倒したスサノオノミコト、因幡の白ウサギを助けたのはスサノオの子孫オオクニヌシノミコト。皆さんがキーワードと知っていた因幡の白兎やヤマタノオロチの話は、この古事記に載っているのです。 　ここで、皆さんが学習した竹取物語と少しだけ関係のあるお話を紹介します。 　その神様の名はニニギノミコト。ある日美しい姫であるコノハナノサクヤヒメを嫁に欲しいと父親の神様に頼んだところ、姉のイワナガノヒメも一緒に嫁いできました。この姉の顔が醜く、ニニギノミコトは姉だけを返してしまったため、父親は「桜の花が咲くように子孫が繁栄し、岩のように長生きするようにと二人を嫁がせたのに、姉のイワナガノヒメだけ返したのなら、長生きはできますまい。」と予言しました。古事記に出てくる神様は、時代が進むと天皇家に続いていくので、この予言のせいで私たちには寿命があると言われています。 　今出てきた神様たちは、日本各地の神社で祭られています。竹取物語と関連があるといましたが、ニニギノミコトの妻であるコノハナサクヤヒメは富士山に祭られている神様で、富士山にまつわる神話によって、コノハナサクヤヒメがかぐやひめではないかとも言われているのですよ。		古事記の話はあまり知らない様子。
	次は平安時代。伊勢物語です。これは「歌物語」と言います。一話の中に和歌があり、それにお話をつけてある形	カード	「ちはやふる」で反応

	を歌物語といいます。伊勢物語の中身は今のジャンルで言うと「恋愛物」でしょうか。 　一つお話を紹介します。 　主人公の「男」は恋多き人です。この伊勢物語は、この男の話が載っている短編集のような話です。 　この男は、ある時、絶対に結婚することができない人と恋に落ちます。その相手は、天皇のお妃となる予定だったからです。しかし、恋しい思いが募って、ある時女を盗み出してしまいました。ひどい雨になったので、逃げる途中で見つけた小屋で女を中に入れ、自分は外で見張りをしながら雨宿りをしました。朝になり、小屋を開けると、女の姿はどこにもありませんでした。その小屋にいた鬼に食べられてしまったのです。 　この男のモデルは平安時代の貴族「在原業平」と言われています。なぜかというと、彼も天皇の后となる人と恋に落ちたからです。その相手は、藤原家の娘、高子でした。彼女が天皇のもとに行くとき、持って行った美しい紅葉の絵の屏風に、一句詠むように頼まれて詠んだ歌が、「ちはやぶる　神代も聞かず　竜田川　からくれないに　水くくるとは」です。（ここで復習です。「ちはやふる」は「神」にかかる何詞というでしょう？） 　この歌を知っている女子は多いでしょう？マンガ「ちはやふる」で有名な歌ですよね？この歌は百人一首の中では秋の歌に分類されています。しかし業平の人生と重ねて「激しい恋の歌だ」と解釈する人もいます。真相はどちらだったのでしょう？	途中の問題は、３年生にのみ出題	する女子がいる。 『伊勢物語』は借りていった。
	古典の中で恋愛小説の代表作といえば、紫式部の「源氏物語」です。絶世の美男子「光源氏」と、彼の愛した女性たちを描いた作品で、光源氏が亡くなった後、源氏の子どもの時代まで話が続きました。約７４年間の話を書いていて、現在確認されているものは全部で５４巻ありますが、実はすでに無くなっている巻もあるのではといわれています。物語としても優れていますが、中に出てくる和歌も、とても素晴らしいものばかりです。 　これは当時貴族の間では大ヒットした読み物で、特に女性たちは夢中になって読みました。続きがでるのを今か今かと待っている人が多かったようです。 　作者の紫式部はとても頭がよく才能豊かな人でした。子供のころ、兄が習っていた漢文を、教えられることなく暗唱していたというのは、有名な話です。また、彼女はその才能をかわれて、藤原道長の娘で、一条天皇のお后となった中宮彰子に仕えました。ちなみに、一条天皇の亡くなった前の奥さんは、中宮定子で、定子に仕えていたのが枕草子の清少納言でした。（枕草子の作者である、だれでしょう？）こういう関係から、二人はライバルだとも言われています。 　源氏物語は、日本だけでなく世界中で訳されて読まれています。これだけの人々をとらえて離さない作品は読んでみないと損です。すぐにはすべて読むことができないと思いますが、大人になりながら読んでいってください。	カード	
	更級日記は日記文学というジャンルです。	カード	妄想の部分ではみな

	今でも有名人がブログ本を出したりするでしょう？あんな風に、日記として記録していたものが皆に詠まれている作品もあります。この更級日記は菅原孝標女の作で彼女が晩年、自分の人生を思い出しながら書いたものです。 歴史上の人物は、遠い存在で、どんな人だったのかということは想像することが難しいですが、読んでみると、彼女にはとても親近感がわきますよ。 皆さんと同じ１０代のころ、彼女はあるものに夢中になっています。それは物語です。特に、『源氏物語』を読みたい！と思い続けていて、自分と同じ大きさの仏像を作って毎日お願いしていました。 願いがかなっておばさんから源氏物語全巻を借りた日には、もううれしくれうれしくて、昼も夜も部屋にこもって源氏物語を読んでいます。そして頭の中は源氏物語でいっぱい！ １４歳の時には、こんな風に妄想しています。（104 ページ　３行目） さらに３年後、１７歳になっても、まだこんな風に思っています。（136 ページ　７行目） そして３３歳になってやっと、はっと現実に気づきます。（159 ページ　２行目） こういうことを書いていたのですね。ね？なんだかおもしろいでしょう？ みなさんも、大好きなマンガを１巻から最終巻まで何にもせずに読めると考えたら、このときの彼女の気持ちがわかるのでは無いでしょうか？	『21 世紀によむ日本の古典　更級日記』より、引用する	にやにやしながら聞いている。
	同じ貴族の話ですが、落窪物語はかわいそうなお姫様の話です。これは作り物語です これは先にあらすじを紹介します。皆さんが知っている話とよく似ていますので、考えながら聞いてみてください。 継母にいじめられている美しく優しいお姫様がいました。ひどい仕打ちにも耐えて、継母の言うことを聞いていましたが、その噂を聞きつけた左近の少将（とても身分の高い貴族の男性）が、そのお姫様をお嫁さんにもらい、幸せになりました。そして左近の少将は継母に仕返しをします。 これ何かの話に似ていますよね？シンデレラと似ているのです。日本版のシンデレラ物語ですね。 ちなみに落窪というのは、姫が住んでいた部屋が落ちくぼんでいた、みすぼらしかったからそう呼ばれたそうです。ここも灰かぶりと呼ばれたシンデレラと似ていますね。 古典シリーズも口語訳されているので読みやすいですが、さらに現代風に訳されている文庫版もあります。	カード	「シンデレラ！」と答える。
	同じ本に載っている「虫の好きな姫様」は堤中納言物語に載っている「虫めづる姫君」という話で、毛虫が大好きで、お化粧もしたり着飾ったりしないお姫様が出てきます。これはジブリの「風の谷のナウシカ」のナウシカのモデルとなった人です。絵本にもなっています。		
	今まで紹介した平安時代までの作品には必ず和歌が出てきます。和歌を集めた、歌集もたくさんあり、有名なところでは、万葉集、古今・新古今和歌集、などがあります。また、これらの和歌の中から、百首選んで集めたのが「小	カード	書いてみせると、「嵐だ―」と感心してい

	倉百人一首」です。百首もあれば、気に入った歌も出てきますよ。では、私が好きな歌を一つ紹介します。 「吹くからに　秋の草木のしをるれば　むべ山風を　あらしというらむ」 なるほど、山の風で嵐という漢字になるんだよ～と漢字遊びしている歌です。 季節や恋の歌も多いですが、こんなちょっとした遊びの入った歌もあります。		た。
	今昔物語集は、皆さんがよく知っている「日本の昔話」の原型になった話が多く入っています。漢字の通り、「いまはむかし」で始まり、「この話は〇〇の誰々が語ったので、伝わっているのですよ」という終わり方をします。これは日本や世界に伝えられていた話を集めたものです。 いろんな話がありますが、注目は「羅城門」「鼻」。これらは、大正時代に芥川龍之介によってよみがえります。彼が、今昔物語集の話を基に、小説として発表したのです。 古典作品は人々に愛されてきたと言いましたが、芥川が今昔物語集を読んで面白いと思ったからこそ、小説になり、たくさんの人にまた読まれるようになりました。 内容はほぼ同じですが、「羅城門」は芥川が描いた作品の方が、細かく書かれていて不気味です。	カード	
	昔話の原型といえば、宇治拾遺物語、日本霊異記にも載っています。 「雀の恩返し」「こぶとり」「わらしべ長者」など、知っているものがあります。 ちょっとここでわらしべ長者の並べ替えゲームをしましょう。 ルールを説明します。 まずわらしべ長者の話を、私が読みます。 そのあと、場面ごとに分かれているカードを配ります。これは順番がバラバラになっているので、班の皆で協力して、正しい順番に並べてください。 ただし、ダミーカードも入っていますので、だまされないようにしましょう。何枚入っているかは、内緒です。 では、おはなしを読みますので、よく聞いていてください。 （わらしべ長者を読む） では並べ替えてもらいます。時間は２分。よーいはじめ！ （並べ替えゲームをする） 昔話は本によって少し内容が違うものもありますから、いろいろ楽しめますよ。	カード おはなしカード	並べ替えのゲームは、早い班で４０秒、時間のかかる班で２分半くらいだった。
	義経記は、題名を見ると、だれの話か分かりますね？ そうです、源義経の話です。義経は源頼朝の弟で、戦にとても長けていて、勝利を収めていましたが、頼朝により最後は殺されてしまいます。義経とその家来の弁慶についての話はいろんな話がありますよね？	カード	『義経記』がおもしろそうだったと話していた。

	五条大橋での牛若丸と弁慶の出会いから、一ノ谷の奇襲攻撃。弁慶が最後立ったまま命絶えるところまで、物語が続きます。 そしてこの本には、２年生で皆さんが学習する平家物語の那須与一の話もあります。 那須与一は源氏の武将で弓の名人です。平氏との戦いの最中、遠く離れた平氏の船に扇が掲げられました。与一はその扇の一点を矢で射て、見事扇を飛ばしたといわれています。 図書館には平家物語もあり、与一の部分も書いてあります。与一の部分を読み比べて見るのも面白いです。		
	幽霊の話というのも昔からたくさんあります。特に今のよう電気がなかった時代、夜は漆黒の闇に覆われていましたから、不気味さも今以上でしょう。 そんな幽霊話が載っているのは、雨月物語、東海道四谷怪談です。どちらも江戸時代の作です。雨月物語は死んでなお夫の帰りを待っていた幽霊や、弟との約束を果たすために帰ってきた幽霊など、いい幽霊から、うらみを持って呪い殺す悪い幽霊もいます。 一方、東海道四谷怪談は毒薬によって顔が崩れて死んでしまったお岩さんの話です。夫に裏切られて死んでしまったお岩さんが、復讐のため祟りを起こす話。これでもかこれでもかと怪奇現象が起こります。これは歌舞伎の脚本として書かれたようですが、当時江戸で起こったいくつかの事件を元に書かれたようです。 どんな事件だったか知りたい人は、この本のあとがきまで読むとわかります。	カード	「お岩さん」というと、「あぁ！」という顔をした生徒がいた。
	３年生では松尾芭蕉の奥の細道を勉強します。これは芭蕉が江戸から東北を旅した体験をもとに書いた話です。 この松尾芭蕉は江戸時代の人ですが、旅に出る前に住んでいた家は「芭蕉庵」と呼ばれていました。この芭蕉庵、実は一度火事で焼けています。江戸時代の家は、木造で密集しているので、火事が起こると江戸中を巻き込んでしまうことがありました。芭蕉の家が焼けた火事も、江戸中を巻き込んだ大火事で、「天和の大火」といいます。で、この火事をもとに書かれた話が、「八百屋のお七」の話です。 「あさきゆめみし」という題で、この前、前田敦子が主演でドラマがあっていました。このお七の話は「井原西鶴集」に載っています。 天和の大火で家が焼けたお七は、お寺に避難します。そしてそこへ奉公に来ていた若者と恋に落ちます。しかし、お七の家がもとどおりになり、戻ることになって、二人は全く会えなくなりました。どうしても会いたいお七は、また火事で家が焼ければお寺に行けると思い、自宅に火をつけてしまいます。その火事はぼやで済みましたが、お七は火あぶりの刑になってしまった…という話。 先ほども言いましたが、火事が起こると大火事になってしまうので、当時放火は火あぶりの刑になるほど重い罪だったんですね。	カード	

	恋は人を狂わせてしまうことがありますね。今も恋愛がらみのいろんな事件があっていますから、皆さんも気を付けてくださいよ。		
	たくさん紹介しましたが、図書館にはまだまだ他にも古典作品があります。 千年の時間を超えてきた物語が面白くないわけがありません。その時代に合わせて訳もされていますので、読みやすいです。ぜひ読んでみてください。	古典作品の書架の場所を確認する	